

ひとりで悩まず、誰かに相談 ～あなたの街の相談パートナー

人権擁護委員をご存じですか

法務大臣から委嘱を受けた人権擁護委員は、地域の方等からの人権相談や、人権を尊重することの大切さについて理解を深めるための普及啓発等の活動を行っています。

相談活動

人から嫌がらせや差別を受けたり、人権を侵害されたりして困っている方の相談に応じます。秘密は厳守します。

日時 第2(休)午後1時30分～3時30分(事前予約制)

費用 無料 **予約・問合せ** 総務企画課人権推進係 ☎内線2271

区内の人権擁護委員(50音順・敬称略)

- ▶伊藤 花恵
- ▶上原憲太郎
- ▶宇津井洋子
- ▶小澤 清
- ▶小林美奈子
- ▶神 真理子
- ▶神保 秀久
- ▶砂田 厚美
- ▶高田 正道
- ▶松熊 貴代
- ▶宮本美和子



人権を尊重し合える社会のために 人権擁護委員 小澤 清氏

この3年、コロナ禍で不安やストレスの日々が続いています。また、世界ではロシアとウクライナの戦争が始まり、多くの生命が失われる等の深刻な人権侵害が起っており、人権尊重の必要性が一層強く求められています。

令和4年度の法務省の人権啓発キャッチコピーは『「誰か」のこと じゃない。』です。この思いは、国連で採択された持続可能な開発目標(SDGs)が掲げる基本理念「誰一人取り残さない」とも共通する考え方です。

私たち人権擁護委員は、一人ひとりが「誰かのこと」ではなく「自分のこと」と捉えていけるよう、「人権の花運動」「全国中学生人権作文コンテスト」「人権教室」等の啓発活動を行っています。悩んでいることがあれば、小・中学生の皆さんに学校を通じて配布している「子どもの人権SOSミニレター」や「子どもの人権SOS-eメール」等を利用して、いつでも相談してください。私たち人権擁護委員が丁寧にお答えします。

私は、人とのあいさつや対話を大切にしています。気持ちよくあいさつできれば心

が通います。また、相手を尊重(リスペクト)すること、相手の身になって考えることで、お互いの人権が尊重され、豊かな人間関係が築かれると思います。これからも、人権擁護委員の活動を通して、人権を尊重し合える社会づくりのお手伝いできればと思っています。



学校での人権講話の様子

普及啓発活動

人権の花運動

子どもたちが協力して花を育てることを通じて、命の大切さや相手への思いやりの心を育むことを目的に実施しています。令和4年度は、第六瑞光小学校とひぐらし小学校の子どもたちが取り組みました。



▲第六瑞光小学校の皆さん



▲ひぐらし小学校の皆さん

人権教室

人権擁護委員が小・中学校を訪問し、人権についての授業を行い、思いやりの心や人権尊重の大切さを一緒に考える取り組みを行っています。

全国中学生人権作文コンテスト

次代を担う中学生が、日常生活で感じた人権に関する作文を書くことを通じて、人権尊重についての理解を深め、豊かな人権感覚を身につけることを目的に実施しています。

令和4年度は、荒川区代表として諏訪台中学校1年・金田真依さんの「声をかける大切さ」が選ばれました。

子どもたちの人権メッセージ

小学生が、身近にある人権についての考えをメッセージにすることで、人権への理解を深め、人権尊重の意識を育むことを目的に実施しています。令和4年度は、荒川区代表として第六瑞光小学校5年・遠藤智喜さんの作品が選ばれました。



みんな同じ

第六瑞光小学校5年 遠藤智喜さん

これは、ぼくが買物をしてい
るときの話です。周りを見回す
と、ふと車いすに乗っている人
目につきました。そのときです。
その人がタオルを落としてしま
ったのです。
ぼくにとつてそれは、ただの落
とし物です。しかし、相手にとつ
ては大切なものかもしれませ
ん。だから、ぼくは、タオルをひろ
って「タオル落とししましたよ」
と声をかけて渡すようにしてい
ます。
しかし、そのときは、
「タオル落ちましたよ」
と声をかけることができませ
ん。
家に帰るとき、ぼくはどきど
きしました。(もし、あの人がタ
オルのことに気付かずに帰ってしま
っていたらどうしよう)という思
いがずっと頭の中にあつたから
です。
なぜ、ぼくはそのとき言えな
かつたのかを考えました。
ぼくは、自分で階段を上り下り
したり、電車やバスに自分で乗
ったり降りたりすることができ
ます。しかし、それらは足
の自由な人は自分ではできませ
ん。誰かの支えがあつてできる
ことです。だから、車いすに乗
っている人には、いつも助けて
くれる人がいると思つていま
した。
あの時のぼくは、(あの
人は、きっと助けてくれる人が
いるから、ぼくでなくてもいい
よね)と無意識に特別な目で
見まわって行動できなかつた
のです。
このことから、人を見た目
で判断せず、誰に対しても同じ
ように、自分からタオルを手に
取り「タオル落とししましたよ」
と一言、声をかけるように
したいと思います。